

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	21520	市民海外派遣事業費		担当課	ブランド・海外戦略部 海外戦略課	内線	2416
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
	款	2	総務費		分野	5	地域
	項	1	総務監理費		基本施策	1	地域に住み続けたいという思いを育てる
	目	15	海外戦略推進費		施策	4	ふれあいの推進
	根拠計画						
実施計画事業	市民海外派遣事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	中学生以上の市民(派遣事業参加者)	対象者数	75 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・市民の国際理解の啓発を図り、幅広い知識をもった国際社会に対応できる人材を育成する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・飛騨高山国際協会が実施する英語スピーチコンテストと市教育委員会が実施する公募試験により派遣市民を選抜し、派遣先の言語や文化について学習会を実施した後、約1週間の期間で海外へ派遣する。派遣先のアメリカ、オーストラリア、韓国ではホームステイ等を通じて異文化や外国の生活習慣を学びながら交流を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・平成26年8月7日～8月13日 アメリカコース(デンバー) 22名 ・平成26年8月7日～8月13日 オーストラリアコース(ケアンズ) 25名 ・平成26年8月18日～8月23日 韓国コース(ソウル) 15名					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	派遣事業参加者数	人	目標値	75	75	75
				実績値	71	74	62
				算出根拠等	達成率(%)	95	99
	成果面	算出根拠等	目標値				
			実績値				
			達成率(%)				
	成果面	算出根拠等	目標値				
			実績値				
			達成率(%)				
	成果面	算出根拠等	目標値				
			実績値				
			達成率(%)				
	成果面	算出根拠等	目標値				
実績値							
達成率(%)							
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	14,486	14,522	14,970	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			14,486	14,522	14,970	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	204,028	196,243	241,452	
	受益者	派遣事業参加者	(B)	71	74	62	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・派遣選考のために実施する英語スピーチコンテストや公募選考においても、参加者数は確保できており、ある程度のニーズが認められる。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・事業の主催は市(教育委員会共催)であるが、実際の事業は飛騨高山国際協会が代行しており、現在の体制が妥当であると考える。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・目標数値に近い参加者数が得られており、成果が上がっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・見積比較により実施旅行業者の選定を行っており、当該費用に応じた補助金や引率者旅費を支出している。
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	B	・市民が直接異文化に触れる機会を提供し、海外との交流促進に寄与している。
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)

・幅広い知識を持った国際社会に対応できる人材を育成するため、実際の研修前の事前学習会内容の充実を図る等、研修機会をより有意義にしていけることが必要である。

(参考)  
H26事業評価結果(二次評価)

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況

・事業実施前に具体的な海外研修のイメージ確立と学習会充実のため、参加者と有識者(海外戦略顧問、前年度参加者等)との海外の文化風習等に関する対話機会を設けるよう検討する。合わせて、研修後のレポート提出により、研修前に作成する研修計画書との比較による参加者の内面変化で効果を推測する。

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・派遣の選考基準となる英語スピーチコンテストや公募試験への参加者呼びかけを広く行うとともに、参加生徒の希望や友好都市提携を勘案した派遣先の検討を行う。						

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・将来の高山市を担う人材の育成という視点からの効果測定を行い、より効果的な取り組みを検討していく必要がある。						

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	21523	自治体職員協力交流事業費	担当課	ブランド・海外戦略部 海外戦略課	内線	2416
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策		
	款	2 総務費		分野		
	項	1 総務監理費		基本施策		
	目	15 海外戦略推進費		施策		
	根拠計画					
実施計画事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	・友好都市である中国雲南省麗江市等より研修生を受け入れ、高山市の行政等について研修を行うことにより、両市の友好交流の推進と高山市の国際化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・中国雲南省麗江市等からの研修生の受入れ		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・中国雲南省麗江市より研修生1名を受入れ、海外戦略室及び観光課、文化財課にて研修					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	協力交流研修員受入数	人	目標値	2	2	2
				実績値	2	2	1
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	活動指標	算出根拠等		目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
	活動指標	算出根拠等		目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
	活動指標	算出根拠等		目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
	活動指標	算出根拠等		目標値			
実績値							
算出根拠等				達成率(%)			
補足事項							
・H24年度、25年度は、いずれも麗江市から2人受け入れた。 ・H26年度は、麗江市1人、ウルバンバ郡1人の2人を計画し両都市と調整していたが、ウルバンバ郡からの研修生が派遣されず、麗江市からの1人を受け入れた。							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	5,260	4,941	2,455	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			5,260	4,941	2,455	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	57	54	27	
	受益者	市民(4月1日現在)	(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・国際化社会の進展に伴い、市民や市内事業者の海外展開への関心は高まってきており、友好都市との連携強化は、ある程度のニーズがある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・自治体が入受れを行う事業であり市の実施が妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・麗江市からの研修生は計画通り研修者1人を受け入れられた。 ・ウルバンバ郡からの研修者の受け入れが実現できなかったが、次年度(H27)に向けてウルバンバ郡と調整することができた。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・経費については、家賃、渡航費、研修手当などであり、適正な予算執行となっている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・海外友好都市との継続的な連携強化に効果をもたらしている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・研修内容の充実を図るとともに、市民との交流の機会を創出していく必要がある。 ・友好都市提携の経済活動への活用等、連携強化による効果を明確にする必要がある。 ・ウルバンバ郡からの研修生を受け入れるための調整を行う必要がある。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・市民との交流機会を創出していくとともに、市の事業へも積極的に携わってもらい、連携強化によるメリットを明確化する。
------------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> H26完了	<input type="checkbox"/> H27完了予定
	・幅広い友好都市関係の強化を図るため、他国友好都市からの研修生の受入に向けて調整する。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> H26完了	<input type="checkbox"/> H27完了予定
	・研修生の活動が見えるよう情報発信を行う必要がある。 ・他の友好都市からの受け入れの検討にあたっては、研修生を市が費用負担して受け入れていることから、市民等に対する具体的な効果について明確にする必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	21524	姉妹友好都市交流促進事業費		担当課	ブランド・海外戦略部 海外戦略課	内線	2416
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
	款	2	総務費		分野	5	地域
	項	1	総務監理費		基本施策	1	地域に住み続けたいという思いを育てる
	目	15	海外戦略推進費		施策	4	ふれあいの推進
	根拠計画						
実施計画事業	国内外姉妹友好都市等交流事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・海外の姉妹友好都市であるアメリカ合衆国コロラド州デンバー市、中華人民共和国雲南省麗江市、ルーマニアシブウ市、ペルー共和国ウルバンパ郡との友好交流を促進する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・姉妹都市・友好都市への派遣及び受け入れ、交流		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・シブウ国際演劇祭へのボランティアスタッフ(1人)の派遣 ・デンバーからの学生(23人)の受入 ・デンバーへの訪問団(28人)の派遣 ・コロラド大学への高山市内在勤研修医(3人)の派遣					
	成果指標	指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
		姉妹友好都市等関係者との交流人数	人	目標値			
		算出根拠等		実績値	290	3,020	257
				達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
				目標値			
		実績値					
		達成率(%)					
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)	(A)	5,728	5,007	1,002		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		5,728	5,007	1,002		
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	62	54	11		
	受益者	市民(4月1日現在)	(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・国際化社会の進展に伴い、市民や市内事業者の海外展開への関心は高まってきており、友好都市との連携強化は、ある程度のニーズがある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・友好都市提携をもとにした交流事業であり、高山・デンバー友好協会や高山・雲南・麗江友好協会などの関係団体と連携を取りながらも、市が主体的に実施していくべき事業である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・様々な交流事業を実施しているが、幅広く対象を広げ交流人口を増加させることが課題である。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・経費は渡航費用等の支援が中心であり、適正な予算執行となっている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・民間交流を促進する機会を支援することで、海外との交流促進に寄与している。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(TA)評価にすることが必要なかを記入)	・幅広く市民を対象とした交流事業を展開し、交流人口の増加を図る必要がある。
-------------------------------------	---------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・姉妹友好都市との交流機会を見出し、交流事業補助制度の活用により、市民の交流機会の増加を図る。
------------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・特定の団体だけでなく、多様な団体等の交流機会の創出により、市民がより理解を深められる事業内容を検討する。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・交流先の都市数が増えたことから、交流促進事業全体を計画的に推進する必要がある。 ・一部の市民のみの交流とならないよう、市民意識の醸成や交流機会の創出に取り組む必要がある。 ・都市の特性に応じた交流内容を検討する必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	21525	国際交流事務費		担当課	ブランド・海外戦略部 海外戦略課	内線	2416
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
	款	2	総務費		分野	5	地域
	項	1	総務監理費		基本施策	1	地域に住み続けたいという思いを育てる
	目	15	海外戦略推進費		施策	4	ふれあいの推進
	根拠計画						
実施計画事業	国内外姉妹友好都市等交流事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	国際交流の促進及び民間交流団体の活動支援を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	国際交流活動の支援		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	市民外国語講座の実施(受講者368人) 英語スピーチコンテストの開催(参加者65人) 中国文化観光ウィークイン高山の開催(参加者約2,000人) 韓国文化体験講座・コリアウィークイン高山の開催(参加者約1,600人) 等				
	指標名 単位 目標・実績 H24 H25 H26					
	成果指標	市民外国語講座受講者数	人	目標値 500	実績値 402	500 368
		算出根拠等		達成率(%) 80	79	74
	成果指標	市民の国際交流事業などへの年間参加人数	人	目標値 5,000	実績値 3,200	5,000 4,177
		算出根拠等		達成率(%) 64	169	84
	成果指標			目標値		
		算出根拠等		達成率(%)		
	成果指標			目標値		
		算出根拠等		達成率(%)		
成果指標			目標値			
	算出根拠等		達成率(%)			
補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額	
	歳出(千円)		(A) 6,299	1,463	1,537	
	受益者負担(使用料・負担金等)					
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		420	167	360	
	一般財源		5,879	1,296	1,177	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 68	16	17	
	受益者	市民(4月1日現在)	(B) 92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	国際化社会の進展に伴い、海外都市との交流への関心が高まっており、ある程度のニーズがある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	現在、市が主体となり全体調整をしながらも、飛騨高山国際協会などの関連団体と連携し事業を進めている。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	様々な事業を実施しているが、事業内容の見直しを行うことで、交流人口を増加させることが課題である。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	経費は、外国語講座や文化交流イベントの実施に要する費用等であり、限られた予算規模の中で効率的な執行が図られている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	B	海外との人や文化の交流促進に寄与している。
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・幅広く市民を対象とした交流事業を展開し、交流人口の増加を図る必要がある。
---------------------------------------	---------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・文化交流イベントの内容充実を図り、交流人口の更なる増加を図る。
------------------	----------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・関連団体からの協賛等を募り財源を確保し、事業内容を充実させることで、交流人口の増加を図ることを検討する。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・団体が主体的な運営体制を取る方向で、飛騨高山国際協会との事務分担について見直す必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	21526	海外戦略推進事務費		担当課	ブランド・海外戦略部 海外戦略課	内線	2416
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして
	款	2	総務費		分野	6	工業
	項	1	総務監理費		基本施策	1	時代の流れに対応した活力ある工業の振興を図る
	目	15	海外戦略推進費		施策	1	経営体質の強化
	根拠計画						
実施計画事業	海外戦略推進事業・おもてなし国際化促進事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	外国人観光客が訪れやすい体制を構築して誘客を促進するとともに、市特産品の海外販路を拡大し、市民がその利益を享受する。		
概要	事業の実手法(手段)	・情報発信: 海外旅行博への出展、海外旅行代理店ファムを実施し、市の情報を積極的に発信する。 ・環境整備: 外国人向けパンフレットの整備、市内事業者によるおもてなし体制の強化を図る。 ・販路拡大: 海外在住輸入業者との関係構築に努め、地場産品の輸出を促進する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・国内外関係機関戦略派遣職員による誘客・販促活動 ・海外旅行博出展(フランス国際旅行博、コルマル国際旅行博【フランス】、台北国際旅行博【台湾】) ・海外誘客プロモーション活動(アメリカ、フランス、オーストラリア、中国、台湾、香港、韓国、マレーシア、タイ等) ・海外旅行代理店取材等対応 84件 743人 等					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	外国人観光客入込数	人	目標値	300,000	300,000	300,000
	算出根拠等		実績値	151,000	225,000	280,000	
	活動指標	算出根拠等		達成率(%)	50	75	93
	活動指標	トップセールス等海外プロモーション	件	目標値	10	10	10
	算出根拠等		実績値	13	12	13	
	活動指標	算出根拠等		達成率(%)	130	120	130
	活動指標	海外旅行代理店取材等対応	人	目標値	240	240	240
	算出根拠等		実績値	279	610	743	
	成果指標	算出根拠等		達成率(%)	116	254	310
	成果指標	新規海外販売契約件数	件	目標値	7	7	6
	算出根拠等		実績値	4	13	8	
	算出根拠等		達成率(%)	57	186	133	
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	41,142	32,361	44,076	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
	財源内訳	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		21,415	18,825	20,924	
	財源内訳	一般財源		19,727	13,536	23,152	
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	443	351	481		
コスト指標	受益者	市民(4月1日現在)	(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域活力の向上のため、海外観光客の誘客促進、地場産品の販路拡大が必要となっている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・戦略派遣職員を中心とした市職員が各種関係機関と連携し、市内事業者が海外展開できる環境を整備する。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・海外誘客、地場産品の海外販売においては、確実に成果が上がっている。(外国人観光客数の増加、地場産品海外販売実績)
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・戦略派遣職員の活用、県や各種協議会との連携、外国語観光ガイドの多面的な活用により、効率的に事業を実施している。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・誘客・販売・交流の一体的な推進に寄与している。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・目的を達成するための活動を積極的に行っているが、まだ目標としての成果を得ることができていない。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・現状に関する情報を収集・分析し、戦略を立てて事業を実施する。
------------------	---------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・現状規模での活動を維持するとともに、現状に関する情報をしっかりと収集・分析し、成果目標を達成するために最も効果的な手段を検討する。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・事業の効果を検証し、環境整備等におけるより効果的な手法を検討する必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	21528	外国青年国際交流員招致事業費	担当課	ブランド・海外戦略部 海外戦略課	内線	2416
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	5 「ゆたかさ」のあるまちをめざして	
	款	2 総務費		分野	5 地域	
	項	1 総務監理費		基本施策	1 地域に住み続けたいという思いを育てる	
	目	15 海外戦略推進費		施策	4 ふれあいの推進	
	根拠計画					
実施計画事業	国際交流事業					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・中国よりJETプログラムの外国青年を招致し、国際化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・市民を対象とした中国語講座の講師 ・中国人来客訪問時の通訳		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・中国雲南省より国際交流員1人を受入(海外戦略室にて勤務) ・中国語講座の講師、麗江市や雲南省との交流事務、在住中国人の生活相談 等					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	外国青年国際交流員招致数	人	目標値	1	1	1
				実績値	1	1	1
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	100
				目標値			
	算出根拠等			実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
	算出根拠等			実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
実績値							
算出根拠等			達成率(%)				
			目標値				
算出根拠等			実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	926	1,005	745	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			926	1,005	745	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	10	11	8	
	受益者	市民(4月1日現在)	(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・国際化社会の進展に伴い、市民の姉妹・友好都市を含めた海外への関心が高まっており、ある程度のニーズがある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・自治体が入入れを行う事業であり市の実施が妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・計画どおりの研修者を確保し目標を達成している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・経費については、家賃、渡航費などであり、適正な予算執行となっている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・海外との人や文化の交流促進に寄与している。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・市民との交流機会をより増加させていくとともに、市の事業へのより一層の活用をしていく必要がある。
--	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・外国語講座だけでなく、中国との文化交流イベント時の事業対応等に活用する。
------------------	---------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・市民とのより一層の交流機会の創出と、市が実施する交流イベント等への積極的活用を図る。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					